

2. 当事者である子どもの権利擁護の取組み（意見聴取・アドボカシー※）

※アドボカシー：権利の「擁護」「代弁」

改正児童福祉法では、第1条において、子どもが権利の主体であることが明記されました。

「新しい社会的養育ビジョン」においても、児童福祉審議会による子どもの権利擁護の審査体制の構築、社会的養護を受けている子どもに関して定期的に意見を傾聴し、意見表明支援や代弁をするアドボカシー支援体制の構築など、子どもの権利擁護の推進に向けた取組みを行うことが示されています。

これを踏まえ、本計画においても、子どもの権利擁護の観点から、子どもの意見表明、アドボカシーに配慮した具体的な取組みについて策定するものです。

（1）山形県社会的養育推進計画策定への、当事者である子ども（社会的養護経験者）の参画について

【基本的考え方】

○本計画の策定において当事者である子どもの参画を得て意見を求め、項目毎の具体的な県の取組みに反映していきます。

【現状】

○本県では、計画策定に当たり、当事者である子どもの意見を求めるため、児童養護施設・里親・ファミリーホームに措置されている小学4年生以上の児童164人（回答146人、回答率89.0%）と、児童養護施設退所者43人（回答25人、回答率58.1%）にアンケートを実施しました。（実施方法は8頁「アンケート資料1」を、結果は各項目の「アンケート資料2～8」を参照してください。）

○本アンケートは、傾向を探る調査ではなく、意見を広く求める調査として実施しており、自由記述により個別の意見も多く寄せられました。

【課題】

○今後の社会的養護に関する施策の検討においても、子どもの意見を集約し、反映させる取組が必要です。

【取組】

○県は、今後も随時アンケート調査等を実施し、子ども一人一人の声に耳を傾け、社会的養護に関する施策に反映することで、子どもの権利擁護に取り組めます。

（２）措置された子どもや一時保護された子どもの権利擁護

【基本的考え方】

- 措置された子どもや一時保護された子どもの権利擁護の観点から、当事者である子どもからの意見聴取や意見を酌み取る方策、子どもの権利を代弁する方策について、仕組みづくりに取り組んでいきます。

【現状】

- 本県では、平成 26 年度より「社会的養護における安心・安全レベルアップ推進事業」を実施し、施設等と児童相談所が協働しながら、被措置児童等虐待や子ども同士の暴力等の防止等に取り組むことで、安心・安全な生活の場を保障し、子どもの権利擁護を図っています。
- 上記推進事業の一貫として、代替養育を受けている子どもへのアンケートを定期的に行い、子どもからの意見聴取を実施しています。
- 各児童相談所では、児童相談所運営指針に基づき、援助方針の策定において、子ども及び保護者等の意向を聴取し、その意見について検討し、記録に留めています。
- 改正児童福祉法により児童福祉審議会（本県の場合、山形県社会福祉審議会児童福祉専門分科会児童処遇部会）が、子どもからの意見聴取等ができることとなりましたが、具体的な意見聴取方法、手続きについては未整理となっています。
- 措置に当たっては、児童相談所職員が「子どもの権利ノート(※)」を活用しています。
- 措置や一時保護の際の児童相談所及び施設職員からの説明について、子どもの意見は 13 頁「アンケート資料 3」のとおりです。

※児童養護施設などで生活する子どもに権利を伝え、権利が侵害された時にその解決方法を説明する小冊子

【課題】

- 児童福祉審議会等の第三者機関における子どもからの意見聴取等の仕組みの構築が課題です。
- 子どもの権利擁護の観点から、現状に合わせ、適宜「子どもの権利ノート」の内容を見直すとともに、活用の徹底を図る必要があります。

【取組】

- 施策の利用の決定（特に代替養育に関する措置とその変更・継続時）に当たっては、子どもに十分な説明がなされることを徹底していきます。
- 今後の国における調査研究の結果を踏まえながら、児童福祉審議会における子どもからの意見聴取方法について整理していきます。

- 「子どもの権利ノート」を活用して、児童相談所や施設等において子どもの権利擁護について説明するとともに、「意見箱」、「アンケート」、「児童相談所職員の定期的な面接」等の取組みにより、更なる子どもが意見を表明しやすい環境づくりを検討し、工夫していきます。
- 今後も子どもへのアンケート調査等により、子どもの権利擁護の実施状況を確認していきます。

(アンケート資料1)

【子どもへのアンケート調査 実施方法】

(1) 目的

今年度予定されている社会的養育推進計画の策定において、当事者である子どもの意見反映と、代替養育時や一時保護時における子どもの権利擁護の実施状況の把握を目的とし、次の要領でアンケートを行う。

(2) 対象者

- ① 児童養護施設、養育里親、ファミリーホームに措置されている小学校4年生以上の全ての子ども
- ② 児童養護施設から自立した退所者（退所時15歳以上）で、施設から連絡がつく方

(3) 実施方法

- ① 措置中の子ども
中央児童相談所で行う「児童養護施設等における暴力等に関するアンケート調査」に項目を加えて、施設等を通じて実施
- ② 児童養護施設退所者
連絡の取れる各児童養護施設からアンケートを郵送等で送付してもらい、返信用封筒により直接県に回答
- ③ いずれも回答は任意

(4) 実施時期

令和元年5月

(5) 回答率

	対象児童人数	回答数	回答率
児童養護施設	146人	134人	91.8%
養育里親	12人	6人	50.0%
ファミリーホーム	6人	6人	100%
児童養護施設退所者	43人	25人	58.1%
合計	207人	171人	82.6%

(6) 回答した子どもの学校等

小学校	中学校	高校・その他	大学・専門学校	社会人	未回答・その他	合計
32人 (18.7%)	58人 (33.9%)	55人 (32.2%)	2人 (1.2%)	20人 (11.7%)	4人 (2.3%)	171人 (100%)

(アンケート資料2)

【家庭養育優先原則に関する子どもの意見】

(Q1) 家庭と同じような環境(里親、ファミリーホーム、グループホーム)での生活を優先することについてどう思いますか。(選択)

(A1) (複数回答あり)

よい	わるい	どちらとも言えない	未回答	合計
60人(35.1%)	22人(12.9%)	65人(38.0%)	27人(15.8%)	171人(100%)

○「よい」の理由(自由記述)

(里親・ファミリーホームにいる子ども)

◆実際良かったから◆みんないっしょに楽しい◆良い生活を送れるから◆慣れやすくとても良いから

(児童養護施設にいる子ども)

◆施設と普通の家庭は全然違うから世の中を学んだほうが良い◆もとの家庭で生活してもメリットがないから◆一人では生きられない◆普通の家の生活をしたいから◆しかたないことだから◆家庭の日常をいろいろ知れるから◆その親から離れられる◆自由になれるから◆自分一人だと生活しづらと思うから◆少しでも同じ環境で住めるといいと思うから◆同じ人間だから◆人になれるから◆子どもが不自由だと思わなくなると思ったから◆いっぱいいると楽しい◆将来に役立つと思ったから◆特殊な生活方法に慣れるのはよくない◆いろんな経験ができるから◆将来役立ち、精神的にも落ち着くと思うから◆遊べるから◆良い結果になったから◆施設だと家事など一般的な家庭で学ぶことができないことの方が多いと思うから◆心を改善することができる◆みんなで生活できるから◆寂しさがなくなるから◆一人でいるよりみんなで暮らす方が楽しい◆困らないから◆子ども一人に対して大人が関わりやすいから◆そのまま将来につながるから

(児童養護施設退所者)

◆一般常識を知れる機会が増える◆より家庭らしさが出る◆家族のあたたかさを知れる◆家族以外に話せる人がいるだけでホッとするから◆より普通の家庭に近づけていると思うから◆助けてくれる大人と幸せに暮らせるから◆お手伝いやコミュニケーションをしっかりととれるから◆より家庭に近い環境で自立心が生まれそうだから◆指導や教育が行き届きやすい

○「わるい」の理由（自由記述）

（里親・ファミリーホームにいる子ども）

※「わるい」の回答無し

（児童養護施設にいる子ども）

◆ぜったいしたくない◆遠慮しちゃうから◆一人暮らししたいから◆それなら施設にいたほうがいい◆里親はかわいそう◆両親の代わりにはなれないから◆お母さんから暴力される◆自分の親じゃないから◆知らない家族とは生活やりたくないから◆知らない人だから◆金がもらえない◆無理だから◆知らない人と一緒になるから◆こわい◆やめたほうがいい◆里親などは必ずしもいい人とは限らないから

（児童養護施設退所者）

◆心をひらけなさそう◆（施設は）仲間や相談する人がたくさんいるから◆大人の負担が大きすぎる◆里親が大変だから◆（施設は）多くの子どもと大人がいることで意見交換や気配りがしやすい

○「どちらともいえない」の理由（自由記述）

（里親・ファミリーホームにいる子ども）

◆わかんない。しかたないのかもだけど、子どもにとって虐待より違う環境で暮らす方が苦しいの◆不安になったり、急に友達が変わると・・・

（児童養護施設にいる子ども）

◆わからない（15人）◆なんともいえない（3人）◆どちらにも欠点があるし、良いところもあるから◆子どもがどこで生活したいかは法律で決めるべきじゃなく、子どもの意見で決めた方が良いと思う◆逆に息苦しいけど、外出が自由になるなら良い◆お母さんがいいから◆ここよりもっと楽になりそうだから良さそうだけど、移動がめんどくさい◆人それぞれだから◆親と会えないのはさみしいけど、たくさんの人と話せたり遊べたりできていいから◆少人数化しようが途中から入れば疎外感あるし、職員が足りてないから結論意味なくないですか。給料上げたら？◆いろんな家庭環境があるから◆そーする事でのメリットは何ですか？◆どちらも人と関わられるからいいと思う◆当人の意見を尊重すべき◆どうせ暮らせないなら意味ない◆グループホームで生活してもいいけど、別の学校に行くのは嫌だ

（児童養護施設退所者）

◆違いがわからない◆よくわからない◆親の愛を知らない子にとって里親に愛される経験はとても大切だが、里親に行くことに重きを置きすぎて、子どもの精神の負担になってほしくない◆一緒に住める人を選べるかどうか

かで違うから◆少人数の方がいいとは思ったが、私は施設の生活はたくさんの人と出会えてとても良かったと思っているから◆子どもにとっては施設というイメージが減るからいいと思うが、職員への負担が増えそうである◆必ずしもうまく信頼関係が築けるか心配◆家庭と同じようにと言っても、他人と暮らすのには変わらないから、施設の時と思うことはそんな変わらないと思う（私は）

(Q 2) あなたは、どこで生活したい（生活してみたかった）ですか。（選択）

(A 2) (複数回答あり)

里親	ファミリーホーム	グループホーム	児童養護施設
23人(13.5%)	9人(5.3%)	14人(8.2%)	66人(38.6%)
その他	未回答	合計	
48人(28.1%)	15人(8.8%)	171人(100%)	

○「その他」の内容（自由記述）

親、家族と暮らしたい	21人
一人暮らしがしたい	6人
親族の家で暮らしたい	3人
どこでもいい	3人
友達と暮らしたい	2人
生きたくない、Wi-Fiのある場所など	—

(以下、児童養護施設退所者のみ対象)

(Q 3) 施設で暮らす子どもたちの権利を守るために、こうなったら良いなど
 思うことなど、何でも自由に書いてください。（自由記述）

(A 3)

◆施設職員増員等で職員一人当たりの負担が減ってほしい。子どもが職員と過ごす時間が増えると思う◆養護施設で暮らしている時、施設にいることを学校の人等に言うのが嫌でした。かわいそうとか思われるからです。そう思って悩んでいる子が私と同じようにいると思う。施設=かわいそう、とならないようになればいいと思う◆子どもだけでなく、親の責任というものを親に実感してもらうために行政の人々に動いてほしい◆やっぱり施設でよかった◆卒園して数年の子のフォローアップの会とかあってもいいのかと。同士ともまた会っていろいろ話もしたいでしょうし・・・◆親・きょうだい・親せきと交流を増やすべき◆スマホ・Wi-Fiを使わせるべき◆最近『施設』にまとまりがない気がするから団結力をつけてほしい◆子どもの気持ち

を優先し、トラブルを減らせるようになったら良いと思う◆施設で暮らすのは決して楽しいことじゃない、むしろ辛い。施設のルールに縛られずに子どもたちを自由に生活させてやってほしい◆家庭の中でSOSを出している子どもを見つけたらすぐに保護して子どもを守る。死んでしまう子どもをなくしてほしい。職員一人一人が命の大切さ尊さを知ってほしい。沢山の人が子どもたちに寄り添うことを大切に！◆一人暮らしをするためのサポートだけでなく、普段からインターネットなど今の時代に必要な知識を身に付けられる環境が必要だと思います◆親がもっとしっかりするべき◆子どもに対して手を出したり、無視したりなどの虐待を減らして子どもが安心して暮らせるような社会を作っていって、笑顔で明るい社会にしてもらいたいです◆施設には家庭の問題などでストレスを抱えていたり、精神的な課題を抱える子どもが多く、全員に同じだけの指導が行き届かず、トラブルが起きるケースが多かったように思います。少人数のグループホームを増やしていくことはとても良いと思いました◆毎日毎食ご飯も出て、寝るところもあった。何不自由無く生活できているのは、幸せなことだと思うけど、施設の子たちは、不満とか思っていることたくさんあると思うから、少しでも話を聞いてあげるなどしてほしい

(アンケート資料3)

【意見聴取に関する子どもの意見】

(Q4) あなたは、児童相談所に一時保護されたときや施設で生活することになったとき、児童相談所や施設職員から十分に理由を説明されましたか。(選択)

(A4)

はい	いいえ	どちらとも いえない	未回答	合計
68人	32人	35人	11人	146人
46.6%	21.9%	24.0%	7.5%	100%

(Q5) 説明された内容は、自分の気持ちとちがうところはありましたか。(選択)

(A5)

ある	ない	わからない	未回答	合計
20人	29人	19人	11人	79人
25.3%	36.7%	24.1%	13.9%	100%

(Q6) 自分の気持ちがちがうということを、児童相談所や施設の職員に伝えることはできましたか。(選択)

(A6)

はい	いいえ	どちらとも いえない	未回答	合計
20人	2人	1人	6人	29人
69.0%	6.9%	3.4%	20.7%	100%

(Q7) 自分の気持ちを伝えたいけれども、思いどおりにいかなかったことはありましたか。(選択)

(A7)

ある	ない	わからない	未回答	合計
12人	7人	1人	8人	28人
42.9%	25.0%	3.6%	28.6%	100%